

やなぎだ植物公園のサイン看板の設置箇所調査とサインのデザイン制作

指導教員 金沢学院大学 美術文化学部 准教授 越田久文

参加学生 佐伯 晃・高田 宗馬・針谷 実歩・土谷 周平・木原 亜耶・浅野 夕季

1. 調査研究成果要約

やなぎだ植物公園の園内誘導看板の効果的な設置箇所調査、およびデザインの制作を実施した。園内にのべ8日間滞在し、広大な園内の看板をくまなく調査した結果、老朽化や破損、不適切な設置場所等により機能不全のものが多くあることが判明した。特に急を要するメイン誘導案内板（老朽化により現在撤去されている）のデザイン制作・設置仕様書を能登町に提案し、年度末までに予算を確保し、看板を設置する。

2. 調査研究の目的

- ・能登町の重要な観光資源である、やなぎだ植物公園への誘導利便性を向上させる。また園内散策の回遊性、利便性を向上させることによって、入園者の満足度を高め、リピーターの増加を目指す。
- ・やなぎだ植物公園の自然環境、施設、サービス等の調査を行い、来園者にとっての魅力とは何かを探り、その成果をホームページ、パンフレットの改定に役立てる。

3. 調査研究の内容

〈調査の骨子・調査研究方法〉

園内誘導看板の設置状況を調査し、回遊性・利便性を高めるための設置場所等の調査を実施。広大な園内をくまなく調査するには時間と人員が必要であったため、公園内の宿泊施設にのべ8日間滞在し調査した結果、多くの課題があることがわかった。



現地調査の様子

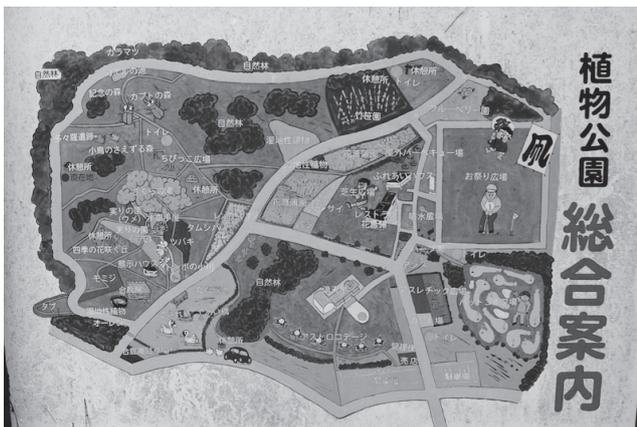
〈スケジュール〉

- ・ 8月20日～22日 現地調査（第1回） 主に園内看板の設置状況の調査
- ・ 8月25日～28日 現地調査（第2回） 主に周辺道路の案内看板の調査
- ・ 9月～12月 調査資料まとめ、デザイン制作
- ・ 翌1月 調査報告書、デザイン案提出

4. 調査研究の成果

〈問題点の整理〉

- ・ 老朽化や設置環境の不備で、機能を果たしていない看板が見られた。
（例）老朽化して撤去されたもの、植物の成長により看板が隠れてしまったもの
- ・ デザインが現代的でなく、イメージ低下のおそれがある。



問題のある看板

〈優先課題〉

- ・ 入場口の総合案内板が老朽化により撤去され、来園者への案内に問題がでている。能登町との協議により、本事業の最優先課題を総合案内板の再設置とデザインのリニューアルとした。現地調査に参加した学生でデザインの検討を行い、複数のデザイン案を提案した。



総合案内板 デザイン案

〈本事業の成果〉

- ・ 人員不足等で調査できなかった園内看板の問題点が、学生の協力により明確になった。
- ・ 学生の意見を元に、看板だけでなくパンフレットや Web デザインの課題が把握できた
- ・ 学生の提案を元に総合案内板を発注し、再設置の目処がたった

5. 来年度の調査研究計画

- ・ 総合案内板の制作に引き続き、園内で使用する印刷物、ホームページのリニューアルに取り組む
- ・ 園内にあるプラネタリウム「満点星」を活用したイベント等の企画
- ・ 周辺道路に設置する誘導標識の設置場所調査

6. 調査研究に対する地域からの評価

- ・ 園内看板の老朽化は以前から把握していたが、人員不足等により全容を把握できていなかった。本事業により詳細が明らかになり、改修に向けて取り組む目処が立った。今後は看板だけでなく、集客に向けたプロモーション計画にも協力いただきたい。
(能登町ふるさと振興課)
- ・ 来園者に配布する園内地図、レストランメニューのデザインについて、学生の意見が聞け、今後の参考になった。総合案内所の壁面を使ったアートペイントなどにも協力いただきたい。
(やなぎだ植物公園 指定管理者)